

# 山の手だより

No.  
32TAKE FREE  
ご自由にお持ち帰りください

## 32号目次

まいにちから、  
まんいちまで。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の検査と治療について 感染対策室 綱島 優	2P
「笑顔あふれる行事と活動」 神経筋／成育センター 療育指導室 保育士 和田裕美	4P
本館のリハビリテーション室が移転しました リハビリテーション科	5P
学校祭(SNS祭)・キャンドルライトフォワーディングを開催して	
北海道医療センター附属札幌看護学校 広報委員	6P
がん患者サロン「ポレ*ポレ」オンライン開催について	
がん相談支援室 がん相談支援員 松井 明日香	7P
YouTubeはじめました。 事務部 管理課 WEBデザイナー 新谷香織	8P

# 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の検査と治療について

感染対策室 綱島 優



11月初旬の時点では全国的にCOVID-19患者数は減少した状態を維持しており、当院も久々に一息ついているところです。



この機会に診断のための検査と治療の現状についてまとめてみました。

## 診断のための検査について

一般の方にもよく知られるようになったウイルスの遺伝子を増やして見つけるPCR法が今でも感度が良くて確実な検査法です。自動化したり、時間を短縮したり出来る様々な機種が出てきていますが、どこでも手軽に出来るという方法ではありません。一方インフルエンザと同様の手法を利用した抗原(定性)検査は簡便で場所を選ばず、薬局でも医療機関で使用するような製品が購入できるようになりましたが、感度はPCR法と比べるとやや劣ります。抗原検査で陰性となった場合(検査がうまく出来た前提で)、その時点でウイルスが少ないと推測できますのでイベントや飲食店利用の直前に検査を行って陰性確認をしてから利用するのは感染を広げない方法としては有効ですが、「感染していない」証明にはなりませんので注意が必要です。また、発熱や鼻水、喉の痛みなどがある場合に検査をするとCOVID-19の場合に陽性となる可能性は高まりますが、やはり「陰性だからCOVID-19ではない」と言うことは出来ません。症状が続く場合は再検査やPCR法での検査が必要になります。この他一部の医療機関や空港検疫などでは抗原「定量」検査が行われていますが測定用の機器が必要なため出来る場所は限定されています。



## 治療薬について

インフルエンザのようにウイルス自体に働く治療薬の開発が進んでおり、この文章が皆様の所に届くことには日本でも使用できる目処が立っているかもしれません。中和抗体療法（2種類の抗体を使用する「抗体カクテル療法」の他に1種類の抗体でも効果が期待できるものも利用できるようになっています）も当院で使用した方々は概ね効果があり、症状が重くなった方はいらっしゃいませんでした。もちろんワクチン接種は感染対策、重症化予防としては重要ですが、現在利用できるワクチンは徐々に効果が低下することが明らかとなっており政府は追加接種の準備を進めています。接種完了から8ヶ月を過ぎた方が対象となる予定ですので市からの通知をお待ち頂きご検討ください。国産のワクチンを含め、効果が持続して副反応も少ないワクチンの開発が待たれるところです。万一重症化した場合の治療方法も流行当初と比べますとかなり整理されてきておりますが、残念ながら救命に至らなかったり後遺症に苦しまれる方も少なくありませんので感染予防に引き続きご注意頂ければと思います。

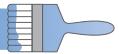


2種類の抗体医薬品を組み合わせた  
抗体カクテル療法に使用される  
「ロナブリーブ」



# 「笑顔あふれる行事と活動」

神経筋／成育センター 療育指導室 保育士 和田裕美



療育指導室は、西2、3病棟(筋ジストロフィー病棟)と、西4病棟(重症心身障がい病棟)に分かれ、児童指導員、保育士が、看護師など医療スタッフと協力して医学的管理のもと、日中活動支援を中心に、利用者のよりよい療養生活、QOLを支えるため、様々なケアや福祉、教育、心理、保育の部分で支援しています。

児童指導員、保育士は、コミュニケーションやスキンシップを通して、楽しい時間を過ごせるよう積極的に関わっています。福祉サービス利用に関わる手続きや、利用者の生活に関する相談にも応じています。心豊かで、快適な生活ができるよう、日々、利用者に寄り添った行事や療育活動を提供しています。

今後も利用者に笑顔あふれる楽しい時間を過ごしていただける行事、療育活動に取り組んでいきたいと思います。

## 行 事



重症心身障がい病棟では、季節を感じられる行事や誕生会、お楽しみ会などを開催しています。10月に行われたお楽しみ会では、職員による劇「北風と太陽」を披露しました。利用者は太陽チーム、北風チームに分かれ、それぞれ得意なことを活かして、病棟スタッフとうちわやポンポンを振ったり、大きな声で北風と太陽を応援し、劇を見るだけではなく、参加して楽しめました。綱引きをして、自分のチームが勝つと、うれしそうな笑顔や、負けてくやしい表情も見られました。北風と太陽から虹をプレゼントされ、目をキラキラさせて虹を見つめる様子もありました。笑いあり、涙ありの楽しいお楽しみ会となりました。

また、11月の誕生会では、職員による演奏会の後に、ケーキを食べる特別な時間もありました。



## 療育活動



療育活動では、季節の製作、カラオケ、ゲーム、体操などを行っています。

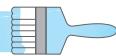
先日の活動では、大運動会を開催しました。真剣勝負の綱引きや玉入れ競争、みんなで力を合わせて、パラバルーンを披露しました。赤組が優勝と聞くと、うれしさに涙ぐむ利用者もいました。

また、10月にはハロウィンのゲームを行い、それぞれくじ引きで当たった仮装を身に着けて写真を撮り、みんなで秋を感じて楽しみました。



# 本館のリハビリテーション室が移転しました

リハビリテーション科



2010年北海道医療センターとして新築移転し、4階に設置された200m<sup>2</sup>程度のリハビリ室は北側に大きく窓を広げ、当時は療法士10名で病院全科の患者さんに対応してきました。現在はよりリハビリテーションを手厚く提供出来るよう、リハ科医師1名、理学療法士16名、作業療法士6名、言語聴覚士4名、総勢27名の体制となりました。今年8月病棟の再編により、旧3-2病棟がリハビリ室として改修され、約3倍の面積で北と東、南の景色を一望できる空間となりました。街路樹や山々の色の移ろいを見ながら、この広い空間で、密の心配なく、安心してリハビリテーションに取り組んでいただいております。体力強化のための機器も増設し、さらに充実した内容でご利用いただける施設となりましたので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

(理学療法士長 井上由紀)



作業療法コーナーの一角には、日常生活動作の練習を行うための入浴練習機器や台所、トイレ、畳コーナーが新設されました。患者さんが治療を終えて退院される前に室内の動作を想定した練習を行うことで、少しでも不安が解消できるようお手伝いさせていただきます。

(主任作業療法士 橋本和樹)



言語聴覚療法室は3室に増え、部屋も広く明るい環境で言語聴覚訓練ができるようになりました。また最新の嚥下訓練機器や訓練道具も取りそろえ、さらに専門的な言語聴覚訓練を提供できるようになりました。失語症、構音障害の患者さんのみならず、「飲みにくい」「むせやすい」といった嚥下障害の患者さんにも耳鼻科と連携しながら「嚥下外来」で対応しております。いつでもご相談ください。

(主任言語聴覚療法士 葛木由希)

## 学校祭(SNS祭)・ キャンドルライトフォーディングを開催して

北海道医療センター附属札幌看護学校 広報委員



北海道医療センター附属札幌看護学校では9月18日(土)に学校祭(SNS祭)を開催いたしました。マスク、フェイスシールド着用のもと密にならないよう、各クラス別々の教室でオンラインを活用し開催いたしました。例年であれば、地域住民の方や医療センターに勤務されている方などをお招きし開催しておりましたが、今年度は昨年同様一般公開を行わず学生だけでの開催となりました。BINGO大会やクイズ、弾き語り動画、ダンス動画、看護学生版お絵かきですよなどオンラインでの実施でしたが大変盛り上りました。新型コロナウイルスの影響により、密を避けるためにも毎日学校へ登校できていない状況が続いております。限られた登校日数の中でより良い学校祭を開催するため何度も話し合いを重ね進行をし、盛り上げてくれた学校祭実行委員のおかげで今年度も思い出に残る学校祭となりました。  
(SNS=Sapporo Nursing School)

2021年11月12日(金)に、第19回キャンドルライトフォーディングが開催されました。キャンドルライトフォーディングとは、ナイチンゲール像からの灯を教員から託された学生一人一人が看護師への道を歩んでいくことを決意する行事です。ナイチンゲールが、クリミア戦争でキャンドルの灯を手に負傷した兵士が横たわる暗い病床を周り、看護したことによ来しています。

私たち21期生は、キャンドルライトフォーディングにて、このように誓いました。  
「患者さんが安心して生活できるようにサポートできる看護師を目指します。患者さんを様々な視点から支援するために、患者さんの家族や周りの医療スタッフとの関わりを大切にします。正しい知識と技術を身に付け、柔軟に対応できる力を養い、仲間と協力して学び続ける姿勢を忘れずに努力することを誓います。」  
この誓いは、私たちが思い描く理想の看護師になるための目標です。大いに学ぶことができる環境や、日々ご指導して頂いている教職員の皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、常に向上心を持って日々精進していきます。

最後になりますが、第19回キャンドルライトフォーディング開催にあたり、御尽力頂いた教職員の方々や、感染症対策等による制限のある中でご理解とご協力を頂いた保護者の方々に感謝申し上げます。とても素敵な式典になりました。ありがとうございました。



# がん患者サロン「ポレ＊ポレ」オンライン開催について

がん相談支援室 がん相談支援員 松井 明日香



がんの患者さんやご家族が気軽に語り合う交流の場として、がん患者サロン「ポレ＊ポレ」を開催しています。現在は、新型コロナの感染予防のため、オンラインで開催(ZOOMを使用)しております。

毎回、栄養や運動・ケアの方法など、がんに関係した内容で専門家からの講義をしていただいており、1月は、理学療法士長 井上さんに「リハビリや運動について」を個別に質問を受けながらその方に合った方法と一緒に考えていきたいと思っています。2月は、がん化学療法認定看護師 猪狩さんより「抗がん剤施行中のお口の清潔について」の講義を予定しています。

コロナ禍で、簡単に人との対話ができなくなっていますが、ご参加の方より「オンラインで人とつながり、会話できることが、気分転換や治療へのエネルギーになる」というご意見をいただいている。これからもより多くの人たちがつながることができればと思っています。皆様のご参加をお待ちしております。

## 開催日時

毎月第2水曜日 講 義 13:30~14:00

座談会 14:00~14:30

## 参加方法

下記メールアドレスへご予約下さい。

(当院ホームページや外来に設置のリーフレットに詳細がございます)



: 101-gansoudan@mail.hosp.go.jp

- ①お名前
- ②生年月日（任意）
- ③メールアドレス
- ④電話番号
- ⑤ZOOM 使用経験（あり・なし）を、ご記入の上メールを送信ください。

なお、先着 10 名様とさせていただいております。



# YouTube はじめました。



パーキンソン病のおはなしは、  
2021年11月現在で第9回の配信



## ドローンで撮影

昨年西病棟が完成し、ヘリポートも屋上へ移転しました。すっかり横長になった医療センター、その全景はカメラではとても収まりきりません。そんな北海道医療センターの全景や背後にそびえたつ三角山などを撮影するのがドローンです。

昨年から、新型コロナウイルス感染症の影響で、市民向け、医療関係者向け、採用向けに今までリアルで開催していた講演会やイベントが開催できないこともあり、情報発信やコミュニケーションのあり方が変化しています。

当院でも継続的に情報を手元に届ける方法として、少しずつですがYouTube動画配信に切り替えてお届けしたり、面会をオンラインにしたりなど試行錯誤しています。

動画配信に切り替えてからは以前よりもSNSフォロワーの数が増え、コメントも多くいただくようになりました。視聴回数などリアルタイムで知ることができ、制作の励みになっています。

手探りで始めたYouTubeですが、数か月がたち視聴回数が10,000回を超える動画もでまいりました。

菊地先生のパーキンソン病の動画が10,000回を達成した事を記念して当院キャラクターの『金のまいにちくん』を贈呈しました。これからも情報発信をがんばってくださいという気持ちを込めて、西館筋ジストロフィー病棟の患者さんに3Dプリンタで制作していただきました。

情報発信の変化や、西病棟が完成し新しい部署やスタッフ、患者さんが増え、ますます動画やSNSの活用の機会が増えそうです。(事務部 管理課 WEBデザイナー 新谷香織)

## WEB講演会や講座



公式SNSハ、北海道医療センター「ソーシャルメディアポリシー」に基づき運営しております。詳細はホームページをご覧ください。

札幌市西区山の手5条7丁目1-1  
電話(011)611-8111 / FAX(011)611-5820  
ホームページ <https://hokkaido-mc.hosp.go.jp>

■発行所/独立行政法人 国立病院機構 北海道医療センター  
■発行責任書/広報室長 柴崎 跡也  
■発行日 2021年12月